

# みなみっ子だより

## 2つの理由

早いもので10月になりました。まん延防止重点措置の期間も解除され、感染者の数も随分減少傾向になってきました。さて、今月の全校朝会では、人権の花で植えた「綿」について話をしました。「人権の花運動」は、おもに小学生を対象とした啓発運動で、昭和57年度から実施されています。その内容は、学校に配布した花の種子、球根などを子どもたちが協力して育てることによって生命の尊さを実感し、その中で豊かな心を育み、優しさと思いやりの心を体得することを目的としたものです。本校は、「マリーゴールド」と「綿」の種を頂きました。

マリーゴールドは各学年で育て、綿は、1年生と6年生のペアで植えました。淡いクリーム色の花が咲き、9月には次々と白い綿を付け始めました。3年生以上の方は、1年生の時に国語で「たぬきの糸車」を学習しています。その時の教科書の挿絵をプロジェクターで映し出しながらお話をしました。子どもたちからは、「わあ～懐かしい！」という歓声が聞こえました。昔は、糸車で綿から細い糸をつむぎ、その糸を織って布にしていました。今でも、下着や靴下、ハンカチやタオルなどは綿でつくられた物が多いですね。綿で作られたものは、汗もよく吸い、丈夫で暖かいです。

さて、子どもたちに綿を育ててほしかった理由です。一つは、綿は、どんな厳しい環境でもたくましく育っていく植物だからです。綿は岡山県でも県南でたくさん作られていました。県南というと「干拓地」。400年前までは、倉敷市や玉野市、岡山市の県南等は元々海でした。そこに堤防を築いて、干拓によって海は陸地になりました。でも、塩分を含んだ土地では、お米や野菜は育ちません。でも、この綿は、塩分を含んだ土地でも栽培することができたのです。子どもたちには、この綿のように、辛くて苦しいことがあっても、すぐに諦めたりしないいろいろなことに挑戦して行ってほしいなと思います。

理由の二つ目についてです。この綿、今、日本ではほとんど栽培していません。世界の約80%がインドや中国、ウズベキスタンなどの発展途上国の人々によって生産されているそうです。そして、シャツなど製品になったモノを日本は輸入しています。そしてそこでは、多くの子どもたちが働いています。家族が生活していくために、子どもたちも働いているのです。畑で長時間働かなければならないため、学校に通えていないそうです。学校に通えないと文字が読めません。書けません。計算もできません。大人になってもなかなか仕事につけません。悪循環が生まれます。同じ地球に生まれたのに、学校に通える子もいれば、学校に行きたくても通えない子どもたちもいます。まずそういうことが現実として起こっているということを知ってほしかったのです。そして、どうしていったらよいか考え、自分にできることは何か考え実行できるそんな大人になってほしいと思っています。それが二つ目の理由です。さて、収穫したこの「綿」、どうしようかな～。



## 「校長先生の挑戦問題」を始めました！

「考えるって楽しいな」と思える子どもたちに育ててほしくて「校長先生からの挑戦問題」を始めました。月に1回、計算タイムの最後の日には各学年毎に内容を変えて出していこうと思っています。一人で考えてもOK！友だちと考えてもOK！楽しみながら挑戦してくれたらいいな。



裏面あり

## 校内陸上記録会5・6年生（9月30日）

9月30日に校内の陸上記録会を実施しました。6年生にとっては、小学校最後の陸上記録会です。ハードルでは途中転んでしまった児童もいましたが、最後まで諦めずに走り切る姿に、温かい拍手が起こりました。ここ2年、コロナ禍で大きな行事が延期や中止になる中、校内での陸上記録会は実施できました。子どもたちの生き生きとした姿を見ることができて本当によかったです。応援に来てくださった保護者の皆さま、ありがとうございました。



## 秋の遠足に行ってきました！1・2年生（10月7日）

まん延防止重点措置期間であったため、延期になっていた生活科見学にやっと行くことができました。見学先は「池田どうぶつ園」と「子どもの森」です。1、2年生で7つの班をつくって一緒に活動！「池田動物園」では、ウォークラリーをしました。動物園に入ると、入り口近くにいた「フクロテナガザル」の鳴き声や巧みな動きに子どもたちの目は一気にくぎ付け！新しく仲間に加わったキリンに「かわいい〜」の声！子どもたちは満面の笑顔です。ウォークラリーでは、2年生の子どもたちが、1年生を上手にリードしながら進んでいきます。優しい声かけに、1年生の子どもたちも安心してついていました。2年生の成長をとても強く感じた遠足でした。1年生の子どもたちも、よいモデルを見て、来年は1年生を上手にリードしてくれることでしょう。楽しみにしていた秋の遠足。本物を見たり触れたりする経験や体験をこれからも大切にしていきたいと思います。

